

仲間づくり教養コース ②国際社会学

ロシア・ユーラシアのいま

第3回 ユーラシアの国境政治

ロシアをめぐる国境画定

(日本が抱える国境・領土問題とも共通する?)

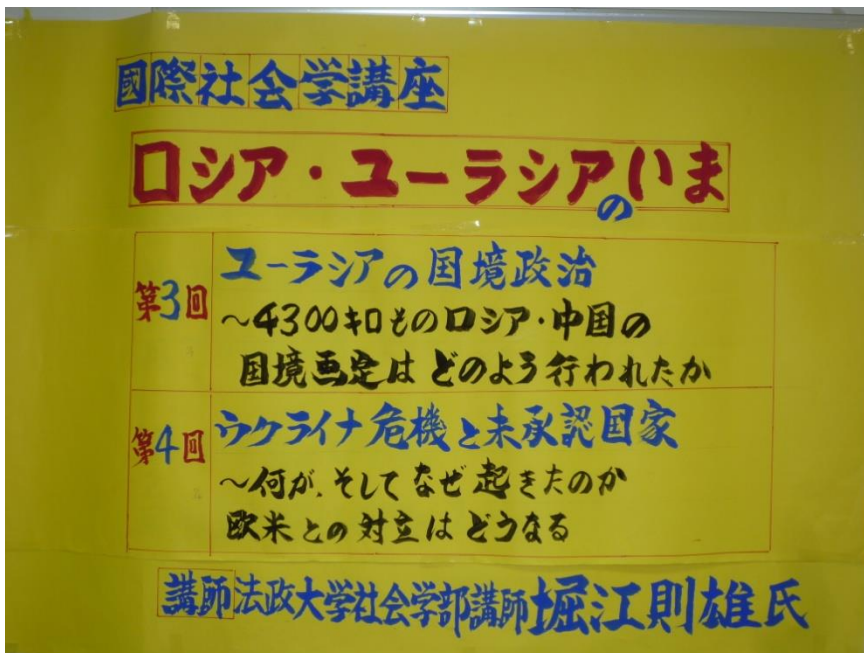
日時 11月7日(土) 10:00am~

場所 ふじみ野交流センター 講座室

講師 堀江則雄氏 (法政大学社会学部 講師)

受講人数 45名

第3回目は前半最後の講座として、4300キロにも及ぶ、中ロの国境画定交渉はどのように行われたのか。ポイントは、数ある大河の主要航路であったことを中心に学んだ。



中ロ国境の前史

- * 帝政ロシアの進出と清、ネルチンスク、アイグン、北京各条約によるアムール川国境画定、ペテルブルク条約による中央アジア方面での国境画定
- * 中ソ国境、ソ満国境の争い
- * 1960年代交渉決裂と国境地帯での軍事衝突<ダマンスキー島、イリ地区>
- * 7300キロ(インド・バキスタンまで)の国境地帯の緊張・対立がユーラシアを分断

中ロ国境交渉<4300キロ>

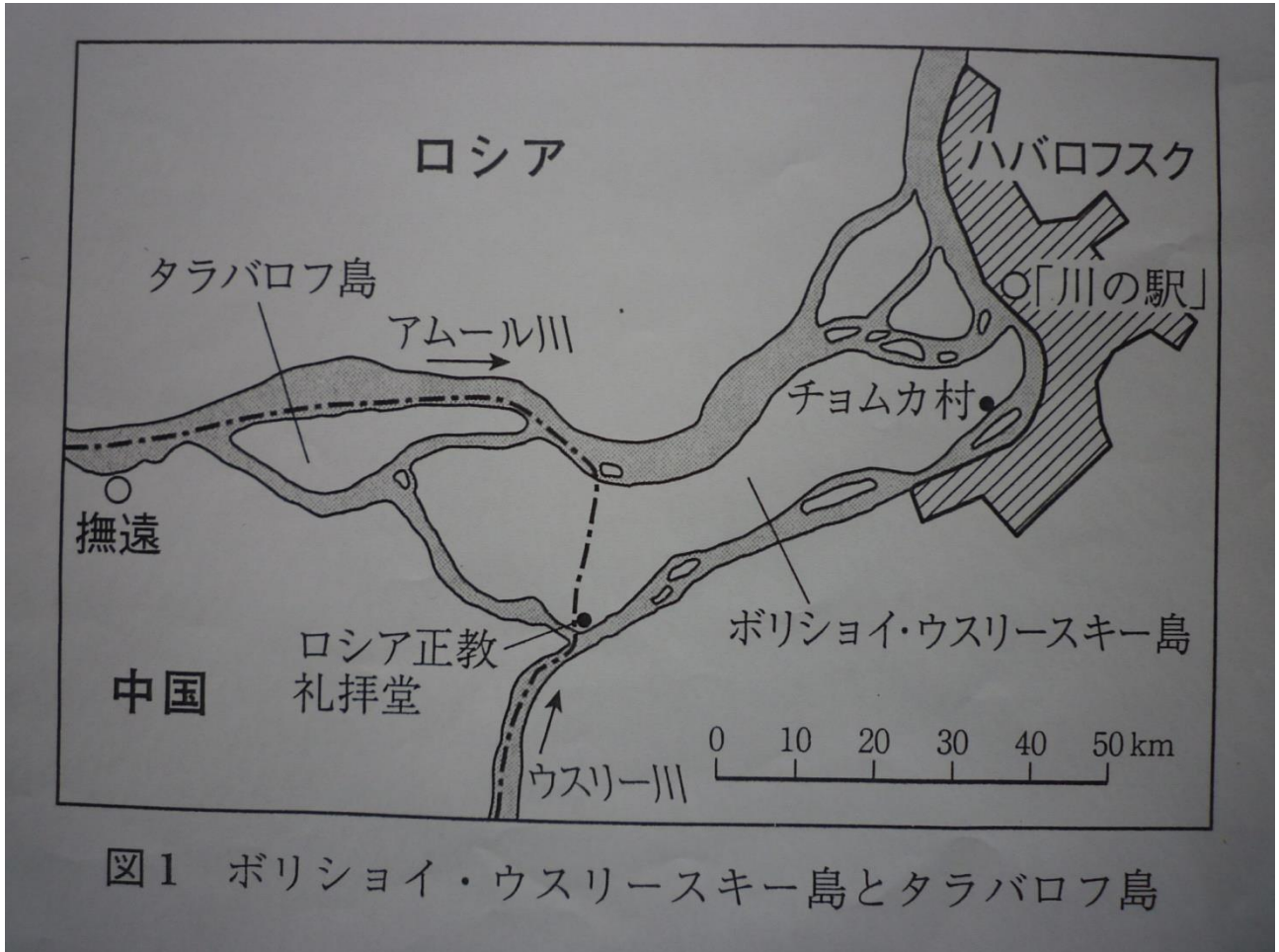
- * 「ペレストロイカ」と「改革・解放」路線で、1987年に国際法に基づいて国境交渉再開
 - * 係争地区は25ヶ所、面積3万4000平方キロメートル<日本全土の10分の1にも及ぶ>
 - * 国境河川<アムール、ウスリー・アルグン>の国際法による国境画定
 - * 交渉の原則
 - ① 急がば回れ→段階的進展<相互信頼・合意優先>
 - ② フィフティ・フィフティ<日ロ交渉の知恵にもなる?>
- その結果→ロシアに1163の島を
中 国に1281の島と画定



【熱心にメモをとる受講生と熱気に溢れた講座室内の様相】

分割された島々

- * 最後に残った3つの島<ボリショイ・ウスリースキー、タラバロフ、ボリショイ>
- * ハバロフスク眼前の要衝の島、つづいた<かんがい戦争>
- * ツーリズム・保養地として脚光、沈んだ島



【残った3つの島の国境は、主要航路により点線部分に画定されたと講師から説明があった】

中央アジア・中国交渉<3000キロ>、インド・中国交渉

- * 中ソ対立の<遺産>、カザフ、キルギス、タジキと中国との互惠と相互譲歩
- * カシミール領土紛争、軍事衝突も。現状容認、経済・貿易優先



日本の<道の駅>ならぬ<川の駅>があちこちにあったとの講師の話になるほどと納得した。

【文責：秋山孝昭】